

No.	質問	回答
1	<p>佐藤先生に質問ですが、Plan S等で実施期限が曖昧になっているとのことでしたが、アメリカ等の動きを受けて、OAへの動きが急加速、大手出版社のジャーナルが雪崩のようにオープンアクセスジャーナルに転換していく可能性はあるのでしょうか？その場合は、APCもさらに急騰しそうで、明るい未来ではないかもしれませんが。</p>	<p>(回答者：佐藤)</p> <p>アメリカの動向については、案外セルフアーカイブを推していく方針になりそうです。よって、「雪崩を打ってOA雑誌に・・・」ということはないのでは、と予想しております。</p>
2	<p>「個々の大学では無理だ」との議論に関連して：欧米の話にばかり傾きがちですが、中国ではすでにIFを評価指標から除外し、業績の1/3を国産ジャーナルに掲載するというインセンティブを国のポリシーとして導入しています。いかにもアジア的ですが、日本でもそのような号令を助成機関が中心となって掲げていくべきなのではないでしょうか？</p>	<p>(回答者：佐藤)</p> <p>業績の発表場所を制約する中国政府のような方式は確かにインセンティブとしては強く作用すると思います。ただ「学問の自由としてはこれはどうなのか」という懸念もあります。しかしながら、海外ジャーナルを高く評価する今の方針も同様に問題なので、まずはそのいびつな制約を取っ払っていくことが必要だと考えます。</p>
3	<p>(フォーラム終了後のブースにていただいたご質問)</p> <p>趣旨説明の発表で、「OAで出版すれば被引用数等のインパクト指標が高くなることは観察されている」とありますが、具体的な文献はございますでしょうか。</p>	<p>(回答者：西岡)</p> <p>OAの被引用数への影響についての数多くの研究がレビュー論文[1]としてまとめられております。[1]のTable 2では、OAの種別(グリーン、ゴールド)や使用している指標(平均値、中央値)に応じて、「OAは被引用数を上昇させる」等の結論を導き出している研究の件数が記載されています。(例えば、OAの種別としてグリーンに注目しますと、25件中18件の研究が、被引用数が増加することを認めています。)[1]の中の参考文献11、98、118、138等が該当します。</p> <p>なお、[1]でも触れられていますが、各研究のOA種別の定義、被引用数に影響を与える要因(e.g., 雑誌のIF)の考慮といった手法が大きく異なるので、Table 2に示される結果にばらつきが出ています。また、[1]ではハイブリッド誌もゴールド誌も「ゴールド」という括りになっている点にも注意が必要です。</p> <p>[1] LANGHAM-PUTROW, Allison; BAKKER, Caitlin; RIEGELMAN, Amy. Is the open access citation advantage real? A systematic review of the citation of open access and subscription-based articles. PloS one, 2021, 16.6: e0253129. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0253129</p>